体育市民連帯　週刊ブリーフィング　金曜 151 号　2018.11.30

金曜コラム – 地域社会のコミュニケーションのためのソーシャルミックス（social mix）空間の提案　ジュ・ソンテク（体育市民連帯執行委員）

今朝（2018. 11. 26）某日刊紙の「賃貸住宅に住むあの子、”城”に暮らすうちの子と同じ道を通えない」という記事は、私たちの社会で公然と問題化されてきた。それでは一体これらの問題はどこに起因するのだろうか？（訳注：賃貸住宅に暮らすのは下級階層という差別がある。住宅公社アパートのエレベーターで子供がボタンを押そうとしたら母親がその手を叩いて「ここは貧しい人が住んでいるところだから触ったらダメ」と言ったという話がネットで伝えられ社会問題となった。）

これらの問題が発生する原因の一つは、親の教育に対する歪んだ価値観と急速な都市化による人間性喪失から始まったのではないか？という疑問が浮かぶ。教育は健全な常識と専門知識を備えた人材を養成することに重点をおくのにもかかわらず、今日の教育はもっぱら競争だけ煽るエリート教育に重点を置いた社会構造に、拝金主義の風土を作り出した結果ではないかと思う。拝金主義の客観的社会問題としては、社会全体の極端な個人主義と利己主義が蔓延しているというものであり、このような悪材料が続いて様々な社会問題を生むのである。

もちろん、以前、社会経済の高度成長期間中、わが国の教育は時代が求めていた社会的役割を一定部分満たしてきたのは否定することができないだろう。しかし、もはや過去のような画一化･定形化された教育では急速に変化する社会に対応するのは難しいのが実情である。このため、私たちは未来を作っていく若者たちのためにどのような資質を備えるよう努力すべきだろうか？ジョン・ロックが書いた「教育に関するいくつかの意見」で最初に健康を強調している。つまり、健康でなければ何もすることができないか、十分な能力を発揮できないということは、誰もが知っている事実である。

私たちの教育の理想的な目標は、前の教育のための知･徳･体に重点を置いているが、過去には知育にのみ偏ってきた傾向がある。これにより、青少年が思う存分運動できる環境が貧弱であるのが現状である。

最近、教育部から発表された「2017 年学生の健康検査標本統計」によると、小、中、高校の生徒のうち肥満学生の割合が 17.3%であり、これは 2008 年 11.2%に比べて 6.1%増加で、青少年の肥満人口はますます増える傾向にある。特に小児肥満の子供たちの 70%程度が成人肥満につながるという保健福祉部の調査結果もある。また、青少年のストレス解消と心を浄化する正しい方法が提示されず、学校暴力、青少年犯罪、極端な行動などにつながっている。

したがって国家は、親の生活水準に関係なく青少年の社会的な安全網と福祉の視点で、最小限の運動ができる権利を保障してもらいたい。幼少から青少年までは地域社会にある公共スポーツ施設を全面無料で開放して、青少年が思う存分ストレスを発散し肯定的な感情を涵養し、自分がしたい運動を存分にできるようにスペースやプログラムが提供されるべきである。

このような制度的な装置が造られれば、子供の頃から慣れ親しんだ地域社会でのスポーツ活動を介して様々な年齢、階層の区別なく、自然にコミュニケーションする方法と人格教育も行われる。特に地域社会の公共体育施設で、社会経済的背景が異なるメンバーが調和して疎通と健康、そして社会のさまざまな問題を解決するのに中心軸として機能し楽しむことができるスポーツソーシャルミックス（social mix）が

構築されるように、無料で体育施設を活用できる政策樹立に対する妥当性検討と必要性について、政府や自治体からの政策的な議論が行われることを期待してみる。

01 KBS ニュース 2018.11.27

【 シム・ソクヒ心境告白・・・″コーチの暴行は悪意的で常習的″ 】

[アンカー]

暴行論議に包まれたショートトラックの看板シム・ソクヒが KBS 取材陣に会って自分の心境を明らかにしました。

コーチに一度ではなく、二度以上悪質な無差別暴行を受けたことが明らかになりました。

キム・キボム記者が取材しました。

[レポート]

シム・ソクヒ側が去る 9 月に 1 審公判を控えて検事に提出した嘆願書の内容です。

鎮川選手村事件の他にも、二度の暴行があったのですが、その経緯が衝撃的です。

今年 1 月 13 日明け方、訓練中に女性ロッカー室に連れて行き、シム・ソクヒの携帯電話を投げて粉砕した後、拳と足で暴行を加えたもので、その前には昨年 11 月に江陵キャンプではコーチの部屋に呼び、スケート組み立てナットを 4 回投げてシム・ソクヒの額が裂けたりしました。

このようにひどい暴力に苦しめられシム・ソクヒはまだ衝撃から抜け出せない様子です。

【シム・ソクヒ／ショートトラック代表：「薬物治療もしながらよく耐えていて、心配していただいていますが、それでも楽しく乗り越えようとしていますから・・・」]

シム・ソクヒは加害者よりも被害者がさらに傷つく韓国体育の現実も残念がっていました。

【シム・ソクヒ／ショートトラック代表：「私が被害者なのに、むしろ私が身を縮めている姿そのものが、果たしてこれで良いのかという気もしたし・・・私のことで今後の環境がより良くなり、スポーツがより良い方向にいく契機だと考えながら、さらに乗り越えようと思います。」]

暴行加害者であるチョ・ジェボムコーチは 1 審で懲役 10 ヶ月の実刑宣告を受けましたが、来月 17 日に 2 審裁判で最終刑量が決定される予定です。

https://sports.news.naver.com/general/news/read.nhn?oid=056&aid=0010644385

02　アジア経済　2018.11.27

【　南北遺産のシルム、用語からルールまで再整備　】

シルム（訳注：韓国相撲、朝鮮相撲）のユネスコ人類無形文化遺産共同登録は何よりも、スポーツを通じた「南北統一」という点で意味があります。これからはシルムに込められた私たちの国の精神とアイデンティティを確保することが重要です。分断後に変わった南北の格闘用語とルールから再整備する作業が必要です。

シルムは高句麗ガクジョチョン（訳注：角抵塚）内の壁画に描かれるほどに由来が古い種目ですが、1927 年 12 月 27 日、朝鮮相撲協会創立とともに今日の試合方式が確立されました。李マンギ仁済大教授は「サッパ（訳注：シルムで使われる締め込み。腰から太股にかけてしめる木綿製の帯）が正式に登場したのもこの時期から」と言いました。

李教授が 2006 年作成した「民俗競技（シルム）南北交流方案」によると、北朝鮮のシルムは大きく平安道

と黄海道、咸鏡道の方式に分けられます。
平壌を中心とした平安道シルムは約 1m の長さのサッパを相手の右足にかけ、腕がぴったりつくほどサッパを複数回ねじって腕を挟んだ後、右手と左腕で相手をつかまえて進行する「デンサッパコリ」相撲形です。
黄海道シルムは足サッパの長さを 80 ㎝にして左手を相手の足サッパに差し込まず、二本の紐を合わせて握り、右手で相手の腰回しをとる「オェンサッパコリ（訳注：左サッパ掛け）」が基本です。
咸鏡道シルムは 1m の長さのサッパを相手右足に巻いて右腕を挟んでサッパをよじらず緩く差し込んで進行する形です。
（訳注：訳者の実力不足で区別が良く分かりません。文献によると右足にサッパを巻く左シルムが主流で、左足にサッパを巻く右シルム、足のサッパが無い帯シルムの３種類という分類もあるようです。）
李教授は「大邱出身の朝鮮相撲界で有名なナ・ユンチュルという方が朝鮮戦争後に北に行き、今日の北朝鮮のシルムを確立したと聞いているので、慶尚道や忠清道、湖南地方など韓国の相撲の方式と技術的には大きな違いはない」としました。
代わりに北朝鮮の方言とあいまって技術を呼ぶ用語は少しずつ差があります。胴体を使う技術で「オルンクンヅンベジギ（訳注：右胴体腰投げ）」、「オェンクンヅンベジギ（訳注：左胴体腰投げ）」、「ドゥルベジギ（訳注：持ち上げ倒し）」、「フリベジギ（訳注：回し倒し、相手の両足が上がる形で倒す技）」、「トルリムベジギ（訳注：急に反対方向に回して倒す）」などがあり、ドゥルベジギとトルリムベジギを除けば、韓国では不慣れな用語です。
足の技術では、「右（左）アンゴリ（訳注：足掛け）」、「ドゥルアンゴリ」、「アンゴリ返し」、「かんぬき掛け」、「鎌掛け」、「外掛け」、「内掛け」などがあります。手技では韓国の「ジャブはたき」のような「ジョブはたき」をはじめ、「膝はたき」「ドゥルチョプはたき」「ドゥンチギ（訳注：相手の背中に手をまわして投げ倒す）」「首巻き」などの動作を描写した用語があります。
ルールは差が大きいです。韓国では直径 8m 前後の砂場で競技するのに対し、北朝鮮はマットの上で実力を競います。上を着ない韓国とは異なり北朝鮮は下着に袖なしを着用することも異なります。試合を開始するときにも私たちは、座った姿勢でサッパをつかんで起きるが、北朝鮮は立った姿勢でサッパを持って開始します。
相撲選手と言えばどっしりした体格を連想する韓国とは異なり、北朝鮮の相撲選手たちは 100 ㎏を超えることは非常に珍しいです。李教授は「食べ物が豊かでなかった北朝鮮の状況と関連がある」としました。
彼は「ユネスコ人類無形文化遺産南北共同登録が相撲に興味を喚起させる点で歓迎すべきことだ」としました。その一方で「国内スポーツ界が商業化、大型化されて中継放送などに大きく依存しながら、種目のルールまで変えるのが実情である。この流れで相撲が淘汰されて居場所を失った」とし「ルールと用語の統一だけでなく、私たちの民族の固有の文化であった昔の相撲のアイデンティティを維持する機会になったら良いだろう」と付け加えました。
https://news.naver.com/main/read.nhn?mode=LSD&mid=sec&sid1=103&oid=277&aid=0004364549

03　スポーツ朝鮮　2018.11.30

【　子供たちがより幸せな学校スポーツクラブのための提言　】

2018 年 11 月、週末ごとに全国 16 の市道で種目別に開かれた第 11 回全国学校スポーツクラブ大会の熱気

は熱かったです。
校内大会、教育庁リーグ大会、教育監杯大会を経て選抜された全国小・中学校 2 万人の学生が 23 種目の市道代表として参加し技量を争いました。有名な全国学校スポーツクラブが総出動した全国大会の現場は文字通り「祭り」でした。勝敗、順位よりも友情、協力、思いやりなどのスポーツが持つ教育的価値に格別の心を使いました。過去 1 年間に学校のスポーツクラブで一緒に汗を流した先輩・後輩、友達と一生忘れられない思い出を残しました。
全国学校スポーツクラブのサッカー大会の最中だった 16 日、全羅南道木浦国際サッカーセンター会議室には、大会を直接企画し進行した人達が一堂に集まりました。羅サンウ教育部体育芸術教育支援チーム研究士、ソン・ジュンチョル大韓体育会学校生活体育部長、ユン・ヒョンスク全羅南道教育庁奨学官、朴ヒョンサン奨学士、金ギョンム全羅南道サッカー協会事務局長、李スンヘ全羅南道体育会代理、光州第一高の朴ヒョンピル教師と金テゴン君（18）、朴ミンソク君（17）が全体座談会を通じて学校スポーツクラブについての話を虚心坦懐に交わしました。大会現場で直接走りまわりながら感じた成果と今後進むべき道を考えました。
▸学校スポーツクラブ大会、勝敗よりも祭り！
サッカー大会を主管した全羅南道教育庁ユン・ヒョンスク奨学官は「昨年から全国大会を全国 16 の市道で種目別に分散開催している。以前は体育会が主管したが長所と短所がある」としました。 「これまで教育に求めていたもの、現場の学校の子供たちが願うものを直接デザインすることができるという点が面白い。大変ですが楽しみながら楽しく働いている」と雰囲気を伝えました。
実務を担当した朴ヒョンサン全羅南道教育庁奨学士は「16 の市道奨学士が集まって悩みや多くの研究をした。今年だけで 4 回も集まった。スポーツクラブの熱意がすごい」と言いました。 「子供たちが試合だけでなく文化体験を通して学び楽しむ祭りを作ろうと、16 市道で多くの努力をした。団体のメッセンジャーを介して種目別事例を共有し、互いに学んだ」とのプロセスを紹介しています。
『昨年の大会満足度アンケートで学生が選んだキーワードは「勝敗順位勝利」ではなく「友情、思い出、挑戦、興味、協同、配慮」だった。興味を持って協働、配慮する中で友情と思い出を積むのがスポーツクラブ』と祭りのような大会を企画した背景を説明しました。 「大会運営は全羅南道サッカー協会で引き受けてくれた。大韓体育会が予算を支援してくださり、自治体でも観光地の無料入場、文化解説士支援など多くの助けをしてくれた。教育庁単独では絶対にできないことである。体育会、関連機関が一緒に相乗効果を出す祭り」と評価しました。
スポーツクラブの主体である学生の意見が気になりました。修学能力試験を終えるやいなや木浦に駆け付けたという光州第一高 3 年生の金テゴン君は「今年は雰囲気が違う。試合そのものよりも、全国からサッカーが好きな子供たちが楽しみに来る感じだった」と言いました。 「昨年より今年の支援がうまくいったようだ。これ以上望むことはない」と絶賛した。 2 年生の朴ミンソク君は「サッカーは老若男女皆が楽しめ、好きなスポーツだ。全国の学生が共に楽しむ雰囲気がとても良かった」とし「望むことは、審判が学生と意見を交わし意志疎通できるようにして欲しい」と笑いました。
朴ヒョンピル光州一高体育教師は「バスから降りる時から祭りの雰囲気が感じられた。競技場外の体験ブースもよくできていた。サッカーの場合、いくつかの会場で試合が同時に開かれて緊張感も高まり、宿泊施設や運動場などの環境的な部分も良かった」と満足感を示しました。 「何よりも事前案内がうまくいった。指導教師に必要なすべての情報を奨学官が SNS で告知してくださった。出発当日の天候などの現場のリアルタイム情報を知って来ることができてよかった」と評価しています。より良い大会のための改善点として、

「スコアボードがとても小さい。試合時間とスコア、状況を知らせる電光掲示板があったら良いだろう "と提案しました。
競技運営を引き受けた全南サッカー協会の金ギョンム事務局長は「試合前に両チームが一緒に一団となって写真を撮って、現場で勝ったチームの選手たちが負けたチームの選手たちにメダルをかけてあげる姿が良かった」とし「指導者、審判、選手たちお互いを尊重する姿は大韓サッカー協会の「リスペクト（尊重)」キャンペーンとも軌を一にする」と評価しています。
李スンヘ全羅南道体育会代理は「全国スポーツクラブで市道体育会は今年初めて関与しました。市道教育庁が計画を立て、我々はスムーズに行われるように後援する立場」だとしました。 「サッカーの場合、今年の 8 つの球場全体に救急車を配置して安全確保の観点から良かったという評価だ。体育会の立場では、試合的な面をより積極的に支援したいと思う。予算の確保が絶対的に必要である。どの部分に予算が必要なのか早く把握し、適材適所に反映されるようにしなければならない」と言いました。
ソン・ジュンチョル体育会学校体育本部長は「学校スポーツクラブは政府が追求する勉強する選手、運動する学生を具現するために最も必要なシステム」と強調しました。全国大会種目数拡大も提案しました。「なぜ私たちの種目は全国大会がないのかという抗議を頻繁に受けている。現在の 23 種目のほかに 10 以上の市道が参加した場合は全国大会を新設し、より多くの種目がより多くの学生が参加できるようにしよう」と言いました。
学校体育政策と全国大会を総括する教育部の羅ナサンウ研究士は「勝敗を脱し参加意義を置いた祭りの場を企画した。学生たちが 2 年間で現場を祭りと認識するようになった。これを教育的に拡散する必要がある」と意味を与えました。 「教育部から特別交付金で開催費・参加費を支援しているいくつかの試みは参加費が不足している。市道教育庁の予算を学校スポーツクラブに書き込むことができるよう試みに自立権を付与する政策を推進中である。今後、必要な部分を試み教育庁奨学官様と継続的にコミュニケーションする」と明らかにしました。
▸学校体育 – 生活体育 – 専門体育　好循環のための提言
草の根学校体育、生活体育の活性化、底辺拡大を通じた専門選手の発掘など先進国型好循環モデルが現実的に可能だろうか。学校のスポーツクラブで国家代表が出てくるのか。
ソン・ジュンチョル本部長は「現在の状況では学校のスポーツクラブを通じた専門の選手育成は容易ではない」と見ます。 「公共スポーツクラブ専門班を通しては可能である。このよう
なクラブはプロのコーチが指導して放課後毎日運動する。国家代表、実業チーム出身の指導者が教え、良くできる学生が段階的に上位の専門班に上がる連携スポーツクラブでなら可能である」としました。 「学校運動部が廃止されると、市郡区の専門スポーツクラブを通じて選手を育成してこそ「好循環」となるが、まだ困難がある。すぐに運動部の生徒を学校の外出すと行くところがない。予算もシステムもまだ準備ができてない。時間がかかる」と現実的な困難を説明しました。 「学校体育専門体育の好循環は当面は時間がかかるが進むべき方向」としました。 「教育部、文体部、体育会、教育委員会、種目団体、市道体育会などの各機関が新しいガバナンスである学校体育振興会を通じて良い代替を作成することである。韓国体育の百年の計のために一緒に知恵を集めて投資しながら、今後進まなければならない」と力説しました。
羅サンウ教育部研究士は「学校スポーツクラブを通じて優れた技量を見せる学生を専門体育に連携することができるように活性化する政策が必要だ」と強調しました。「学生のスポーツクラブだけでなく、町単位のスポーツクラブ、公共スポーツクラブなどを来年に試験運用する予定」とし「学校スポーツクラブを通じて

運動する一般的な学生がより多くなければならない。才能のある選手は専門選手班、関連機関の連携によって、好循環構造を作っていく方針を考えなければならない」と言いました。

▸より幸せな学校体育のための現場提言

各機関、学校体育主体者が集結した座談会の現場では実質的な提言にあふれました。朴ヒョンピル光州第一高教師は体育の時間をすぐに増やすには難しい状況、塾に行く子供たちを引き留めるのが難しい現実の中で、実現可能な体育活動のソリューションとして昼休みの拡大を提案しました。朴教師は「現場の誰もが認めている。政策的に昼休みを増やしてくれれば良いだろう。子供たちがその時に飛び回ることができる」と言いました。 「子供たちは 4～5 時間目の体育の時間を最も好む。昼休みを前後に付ければ、より動き回ることができるからである。制度的に昼休みを拡大して弾力的に運営して欲しい」としました。 「私たちの学校は、昼休み 1 時間のうち 30 分ご飯を食べて、30 分の昼食リーグをする。子供たちがあと 5 分だけ、10 分だけくれとせがむ。週に一日でも昼休みを増やしてくれれば、子供たちが文化体育活動をすることができる」と付け加えました。体育教師の提案に光州第一高生徒が明るい表情でうなずきました。

ユン奨学官は教育部スポーツクラブのホームページの運営と関連して、「全国スポーツクラブのホームページに各教育庁大会や市道単位大会も適用、登録できるようにして欲しい」と提案しました。 「京畿道は独自のホームページを作った。16 の市道は文書を交わした。各学校のホームページから直接登録して申請することができるようホームページを開いていただきたい」と要請しました。

青少年審判教育も提案しました。 「スポーツクラブ大会で学生が審判をすることができるよう研修を進めて欲しい。子供たちが競技規則を正確に知ることができ、本人の適性や進路も探すことができる。

主審でなくても補助審判などで活動できる方法を考えてほしい」と言いました。これについて大韓体育会ソン本部長は「サッカー、バレーボール、バスケットボールなどのプロ種目の場合、審判講師を送って研修プログラム運営を検討できる」と肯定的な回答を出しました。全羅南道サッカー協会の金局長も「大韓サッカー協会 5 級審判研修の場合、週末三日の教育だけ受ければ公式資格を得ることができる。希望する学生が募集されたらサッカー協会から講師を送って講習会を開くこともできるだろう。正式資格証を得る場合にはサッカー6 審制の補助審判として活動することもできる」と賛成の意を表しました。

「韓国のお母さん」の心を代弁した李スンヘ全羅南道体育会代理の最後の一言に響きがありました。

高校 1 年の子がバドミントンスポーツクラブで活動している。唯一の息ができる時間であり空間だと言った。」学校と塾を休みなく行き来して学業と試験のストレスに悩まされているが、子供たちにスポーツ活動は「息抜き」である。全国スポーツクラブ大会の現場で会った子供たちの顔は一様に宝石のように輝いていた。「親の立場でそのような幸せな時間、健康で充実した時間を私の子供に少しでも多くプレゼントしてあげたい」と言いました。

https://sports.news.naver.com/general/news/read.nhn?oid=076&aid=0003352132

INFOMATION

体育市民連帯　ソウル市 瑞草区 瑞草洞 1485-3 スンジョンビル 305 号

체육시민연대　서울시 서초구 서초동 1485-3 승정빌딩 305 호

Tel：02-2279-8999、E-mail：sports-cm@hanmail.net

ホームページ：　http://www.sportscm.org/

日本語訳：佐藤好行　新日本スポーツ連盟　国際活動局　韓国担当　jr1fgep@jarl.com